

特別講演 2

「潰瘍性大腸炎診療の現在地

—非専門医が知っておきたい診断・治療の進歩と専門医連携—」

浜松医科大学内科学第一講座教授

杉本 健 先生

潰瘍性大腸炎（UC）は患者数の増加と治療選択肢の拡大により、専門医のみならず非専門医も日常診療で遭遇する疾患となった。本講演では、血便・下痢を呈する患者でまず感染性腸炎を除外する重要性、5-ASA 不耐を見逃さない視点、ステロイド抵抗例・依存例を長期化させない紹介のタイミングを、自験例を交えて概説する。また、抗 TNF α 抗体、抗インテグリン薬、JAK 阻害薬、S1P 受容体調節薬、抗 IL-23 抗体など近年の治療薬を、作用機序とサイトカインプロファイルの観点から整理する。さらに、患者背景、病理像、腸管外合併症、ステロイド反応性を手がかりとした薬剤選択の考え方を紹介し、寛解後の逆紹介も含め、一般内科医と IBD 専門医が切れ目なく連携するための実践的なポイントを共有する。